

## 平成27年度 第2回さいたま市幼児教育推進のための有識者会議 協議概要

1 日時 平成27年10月27日(火) 15時00分～17時00分

2 会場 さいたま市役所 特別会議室(2階)

3 出席委員  
(9名)

委員 熊谷 由香  
委員 小谷 宜路  
委員 佐藤 奈実  
委員 佐藤 弘乃  
委員 志村 洋子(委員長)  
委員 関 昌美  
委員 土川 恵子  
委員 丸山 和彦  
委員 武藤 博昭

事務局

(11名)

千枝 直人 子ども未来局幼児未来部 部長  
石川 恵 子ども未来局幼児未来部 次長  
武井 悟 子ども未来局幼児未来部 参事  
青木 淳一 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 課長  
森田 美千子 子ども未来局幼児未来部保育課 副参事  
新井 正男 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 課長補佐  
田口 彰久 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 主幹  
村山 千鶴子 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 主査  
山本 高弘 教育委員会学校教育部参事兼指導1課 課長補佐  
緒方 健二 さいたま市立幼児教育センター附属幼稚園 教頭  
倉橋 りえ子 教育委員会学校教育部指導1課 指導主事

4 配付資料

・平成27年度 第2回さいたま市幼児教育推進のための有識者会議資料

5 主な議題と協議内容

(1) 概要

①平成27年度 幼児教育推進事業【進捗状況】

(事務局)【資料】P1をもとに報告

②保幼小連携推進事業

(事務局) 資料作成の状況報告

③公開保育研究推進事業

(事務局)【資料】P2をもとに報告

④園児の豊かな体験の充実を支援する事業

(事務局)【資料】P3をもとに報告

⑤保育者の小学校等体験研修事業

(事務局)【資料】P6をもとに報告

⑥保幼小合同研修

(事務局)【資料】P8をもとに報告

(2) 主な協議内容(要約)

①園児の豊かな体験の充実を支援する事業について

・保育者が自然体験をして、感動をそのまま園にもち帰り、園児に伝えてもらいたい。

- ・プランターや球根の配布は、特に、自然環境が貧しい園にとってうれしい。
- ・チューリップは外来種である。在来種に親しむ活動も考えられる。
- ・ねこじゃらしや数珠玉等は、遊びに取り入れやすい。
- ・チューリップの花が枯れた後のプランターにいろいろな草が生えて、ビオトープのようになるという話を聞いた。そのような使い方もよいと思う。
- ・自然体験研修に参加した新規採用職員は、ザリガニを初めて捕まえた。翌日、保育室にザリガニをもってくると、子どもがじっくり見ていた。ザリガニを知っている子もいれば、知らない子もいる。登降園をする際に、お母さんと一緒に見て「これ何」とか「バイバイ」とか言って、生き物に愛着をもつようになった。脱皮を初めて見ることでできとてもよかった。
- ・給食のミカンやサクラランボの種を蒔き、発芽の様子を見て、感動した。大きくする栽培することは難しいが、先生たちが体験したことを子どもにうまく伝えられるとよい。

## ②保幼小連携推進事業について

- ・幼児期は、義務教育だけでなく、その後も含めた基礎を培う時期である。小学校のためだけの下請けとならないようにしていかないといけない。子どもの育ちの道筋を把握し、育った子どもの姿として、目に見える形にすることは大切だが、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をじっくり読み込み、子どもに寄り添った援助をすることが重要である。
- ・保幼小連携推進資料は、子どもの育ちの状況に合わせた援助について保育者の共通理解を図るための資料として有効である。
- ・本資料を参考にして、保幼小が連携して子どもが安心して小学校に入学できるように、子どもの育ちと学びを援助したい。子どもにとって学校が、居心地のよい場所にできるとよい。

## 6 備考

- ・傍聴人なし